

科目名	人権思想と現代社会						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	春／秋	開講学部等	共通教育科目	配当年次	1年次	単位数	2単位
教員名	本郷 浩二						

授業概要／Course outline

「人権」という言葉は多くの人が知っています。しかし、「人権とは何か」と尋ねられた時、これを明確に説明できる人はどれほどいるのでしょうか。人権はしばしば、「人間が生まれながらに持っている権利」や「人間が人間らしく生きるための権利」などと説明されますが、それは具体的にどのような権利を指すのでしょうか。また、それらの権利が侵害された時、私たちはどのようにそれを回復させたり保障したりすれば良いのでしょうか。こういったことは、意外と知られていません。

本授業ではなぜ「人権」が必要とされ、それがどのように生み出されたのかを歴史的に振り返るとともに、現代社会における様々な差別や排除、抑圧をめぐる問題を人権の視点から明らかにすることで、その解決や克服を人権の保障との関わりにおいて考えていきます

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

授業期間中に90分相当のオンデマンド授業動画を配信します。

- ・実務経験のある教員による授業

人権相談窓口での相談員経験をはじめ、人権に関する相談・啓発・人材養成等における実務経験を持つ教員（大阪府認定・人権擁護士）が、その経験を活かして、現代社会における人権問題の具体的な在り方や、人権の保障を通じた問題解決のプロセス等について紹介します。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 テーマ：開講にあたって

授業への導入として、「人権」の基本的な考え方と、本授業の目的・目標や求められる視点、授業の進め方等について説明を行います。

第2回 テーマ：人権思想の成立と展開1

社会思想史上の人権思想の成立と概念の変遷を辿り、今日の人権理解の基本原則を確認します。

第3回 テーマ：人権思想の成立と展開2

今日の人権理解の基本である世界人権宣言を中心に、具体的な人権の内容や構成を説明します。

第4回 テーマ：人権思想の成立と展開3

国際人権規約や国際人権諸条約から、国際的な人権保障体制のあり方について学びます。

第5回 テーマ：日本社会と人権1

日本の近代化の過程を辿りながら、日本における人権思想の定着と展開過程を明らかにします。

第6回 テーマ：日本社会と人権2

人権と道徳との違い等を検討し、今日の日本社会における人権理解の特質と問題点について考えます。

第7回 テーマ：日本社会と人権3

日本における人権教育とその課題を考え、新しい人権教育の視点と実践を模索します。

第8回 テーマ：障害／障害者と人権1

障害者への「合理的配慮の提供」をめぐる課題から、障害者の権利保障に向けたプロセスと、その背景にある「障害」の理解そのものの転換について明らかにします。

第9回 テーマ：障害／障害者と人権2

第8回に引き続き、障害者の権利保障に向けたプロセスと、その背景にある「障害」の理解そのものの転換について考えます。

第10回 テーマ：ジェンダー／セクシュアリティと人権1

セクシュアル・マイノリティの権利／人権をめぐる問題から、ジェンダーやセクシュアリティの違いがもたらす差別や抑圧について考えます。

第11回 テーマ：ジェンダー／セクシュアリティと人権2

第10回に引き続き、ジェンダーやセクシュアリティの違いがもたらす差別や抑圧と、セクシュアル・マイノリティの権利保障について考えます。

第12回 テーマ：門地／世系と人権1

被差別部落出身者への差別や排除、抑圧をめぐる問題を中心に、家柄や系譜などの「生まれ」やルーツと、そこから形成される社会的身分について考えます。

第13回 テーマ：門地／世系と人権2

第12回に引き続き、部落問題を中心に「生まれ」やルーツによって形作られる社会的身分をめぐる問題について考えます。

第14回 テーマ：人権思想と現代社会を考える1

受講生の理解度・到達度を確保するための筆記試験を行うとともに、試験についての解説を行います。

★オンデマンド テーマ：人権思想と現代社会を考える2

本授業の全体を振り返り、論点を整理しつつ、現代社会の諸問題を解決／克服する上での人権の視点の有効性と必要性を再検討します。

※本科目の定期試験日の翌日以降に約90分の動画を配信します。

事前・事後学修／Preparation and assignments

本授業の単位を取得するためには、毎回の授業に出席しその内容を十分に理解することに加えて、以下のように各回4時間以上の事前・事後学習が必要です。

第1回～第13回

事前学習：

本シラバスおよび毎回の授業において内容・テーマに関連する参考文献を数冊提示するので、事前にこれらを読み、授業への理解を深めておいてください。（所要時間の目安：120分以上）

事後学習：

全ての授業において当該回の内容に関連する資料を配付するので、必ずその内容を全て確認し、理解しておいてください。また、授業中に提示された参考文献を読み、授業内容への理解を深めてください。（所要時間の目安：120分以上）

第14回～第15回

事前学習：

事前に第1回～第13回の授業内容を全て確認し、理解しておいてください。また、第1回～第13回の授業中に提示された参考文献を読み、授業内容への理解を深めてください。（所要時間の目安：120分以上）

事後学習：

本授業の全体を振り返り、各回の論点を整理するとともに、授業全体への理解を深めてください。また、第1回～第13回の授業中に提示された参考文献を読み、授業内容への理解を深めてください。（所要時間の目安：120分）

このほか、日常的に人権問題や社会問題に興味を持ち、関連図書をはじめ、新聞やニュース、博物館・資料館等での学習などを通じて、それらの情報や動向を常に把握するようにしてください。

授業の到達目標／Expected outcome

人権思想の成立・展開の過程を論理的に理解し、現代社会における様々な社会的課題を人権の保障との関わりにおいて把握することで、これを論理的に思考するとともに、その解決に対し市民としての社会的責任を自覚できるようになること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・ 思考力
- ・ 幅広い教養

履修上の注意／Special notes, cautions

上の授業計画はあくまでも予定であり、受講者数や授業進度などに応じて内容・順序等を適宜変更あるいは調整

する場合があります（原則として、大きく変更することはありません）。

なお、授業進行や評価に関する注意事項の詳細は第1回授業時に伝えるので、第1回授業はなるべく休まないようにしてください。やむを得ない理由で第1回授業を欠席する場合は、必ず事後にその内容を確認するようにしてください。

評価方法／Evaluation

最終講義回（第14回）に、授業内容の理解度・到達度を確認する筆記試験を行います（100%）。

教 材／Text and materials

教科書：なし。毎回、資料プリントを配布します。

参考書等：

申恵丰『国際人権入門―現場から考える』（岩波新書、2020年8月）

参考書等：

キム・ジヘ（尹怡景訳）『差別はたいてい悪意のない人がする―見えない排除に気づくための10章』（大月書店、2021年8月）

参考書等：

藤田早苗『武器としての国際人権―日本の貧困・報道・差別』（集英社新書、2022年12月）

参考書等：

木村草太『「差別」のしくみ』（朝日選書、2023年12月）

※上記以外に、毎回の授業において授業内容に関連する参考文献を数冊提示します。基本的・基礎的な内容であるため、可能な限り読んでおいてください。

質問や相談の方法／Instructor contact

授業内容に関する質問や受講に関する相談等は、原則として毎回の授業終了後に受け付けます。